

特集
2

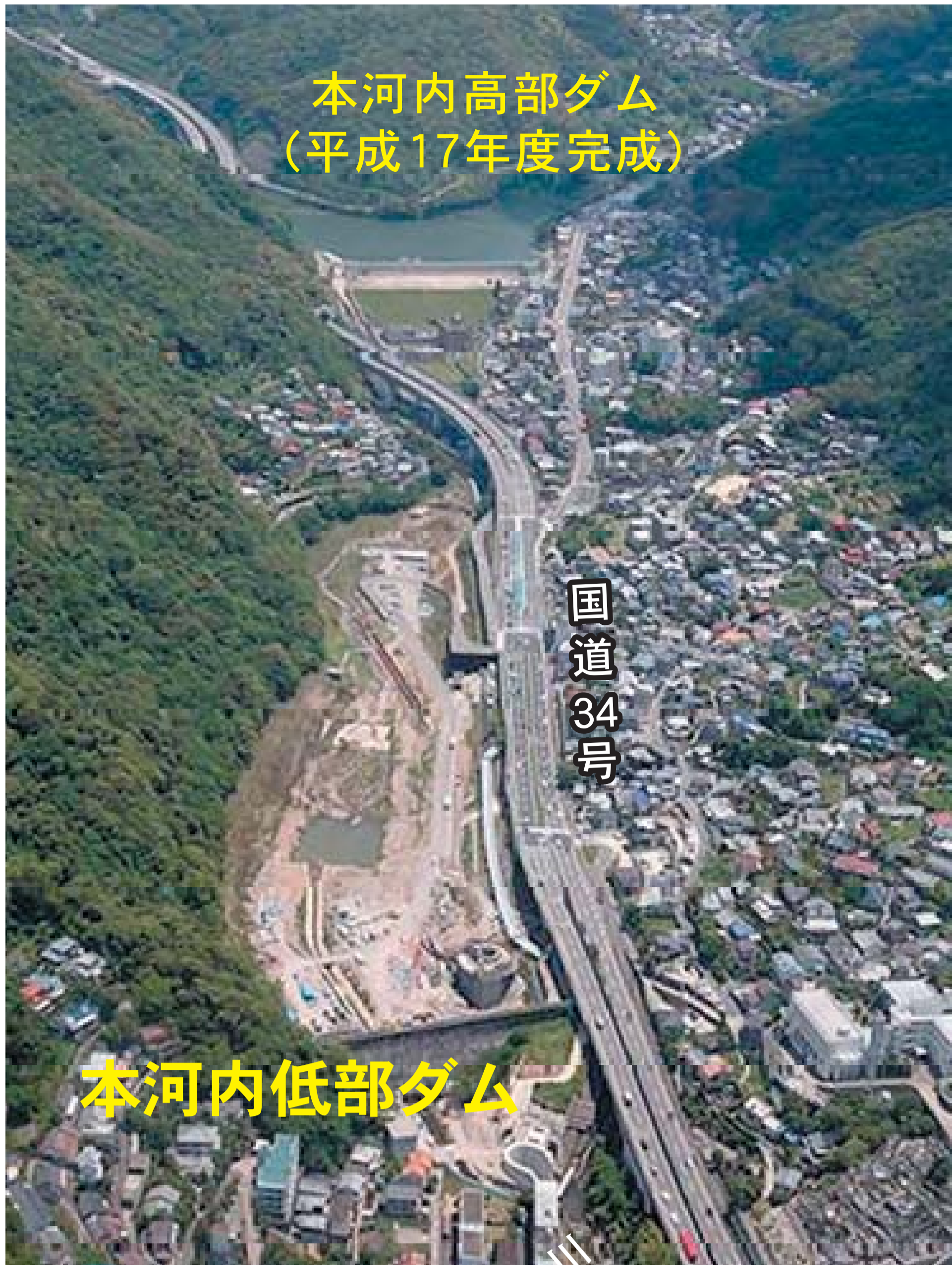
安全・安心で快適な地域づくり

整備が進む本河内低部ダム

ダムの概要

本河内低部ダム(長崎市)は、明治36年に長崎市民の水源確保を目的として、築造された重力式コンクリートダムです。しかしながら、昭和57年の長崎大水害により甚大な被害を被った長崎市街地を洪水被害から守るため、洪水調節機能を持つダムへの改築を進めており、平成23年度には完成の予定です。

- ◎本河内低部ダム諸元
- ・重力式コンクリートダム
- ・上流増厚改造形式
- ・堤高 27.8m ・堤頂長 118.8m
- ・堤体積 約32,500m³



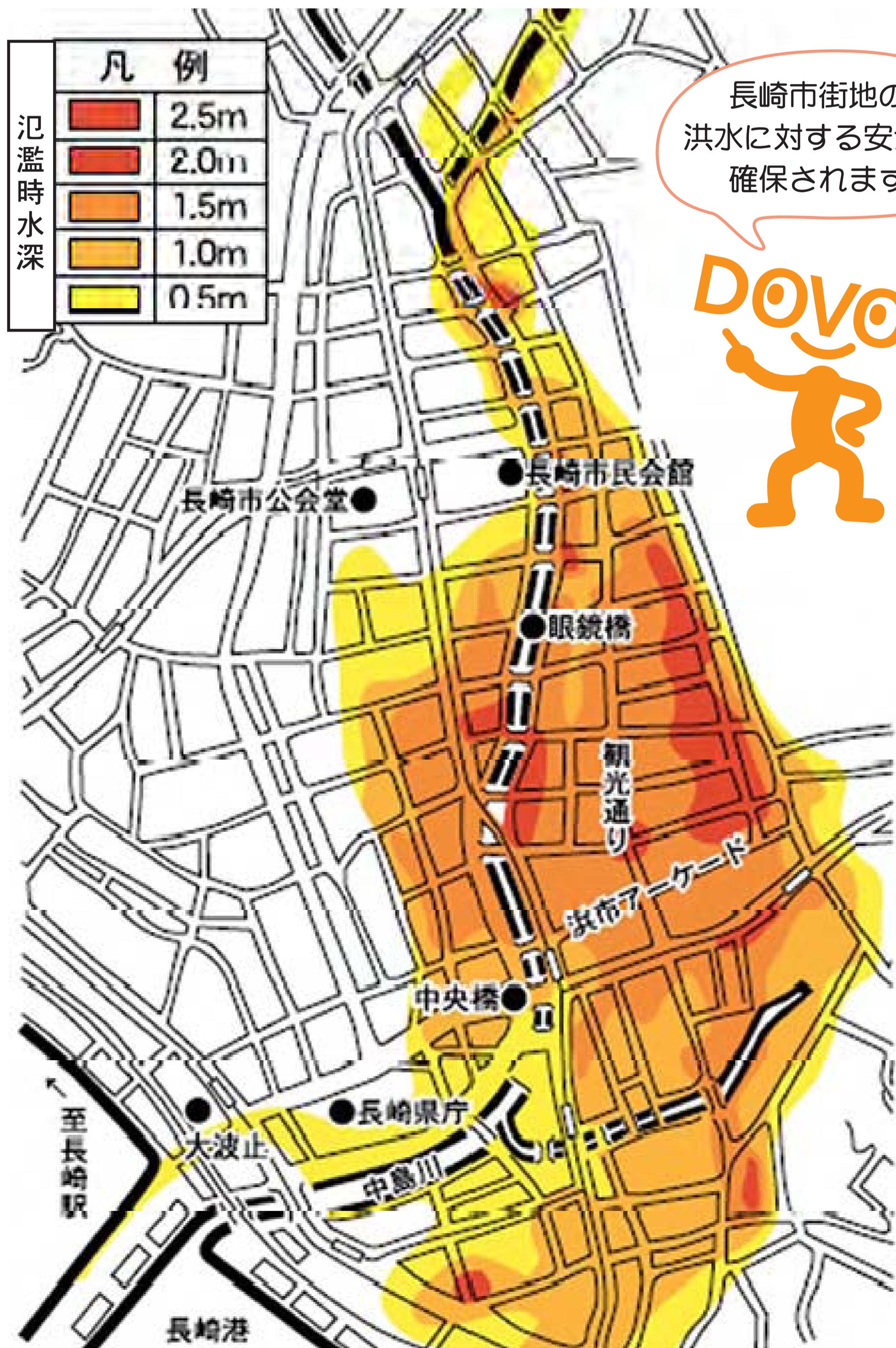
本河内高部・低部ダム



既存ダムの歴史的に価値のある景観を保全しています。



ダム堤体の施工状況(上流側)



昭和57年7月の長崎大水害時の浸水状況

本河内低部ダムが完成することにより、昭和57年7月の長崎大水害(日雨量527mm)相当の豪雨が降っても長崎市街地の安全が確保されます。



長崎大水害時の水位【中央橋付近(長崎市)】



長崎大水害時の被災状況【浜の町アーケード】

本河内低部ダムの効果・長崎市街地の洪水解消

ダム事業